

第6学年1組 体育科学習指導案

指導者 学級担任 西本 修平

- 1 日 時 令和5年9月21日(木) 5校時(14:00~14:45)
- 2 場 所 体育館
- 3 単 元 名 マット運動(器械運動)
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	<p>男女の仲が良く、共に協力し合うことができ、何事にも意欲的に取り組むことができる学級である。運動面に関しては、意欲や自信に差が見られる。しかし、運動を苦手としている児童も自分から聞いてアドバイスを求めるなど、対話を通して技能等を身に付けようとする姿が増えてきている。また、友達同士で教え合うことに対して肯定的に捉えている児童が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストや水泳等の様子や結果から、運動能力において大きな差が見られるが、仲間同士で教え合ったり聞き合ったりして、基本的な技を安定して行ったり発展的な技に挑戦したりしようとする雰囲気が見られる。(知識及び技能) ○ 体育科の学習の中で、互いに協力し合う雰囲気はあるが、自己の課題の解決の仕方を考えたり工夫したりする力が不十分である。(思考力、判断力、表現力等) ○ どの活動においても、ほとんどの児童が意欲的に運動しようとする姿が見られる。運動が苦手な児童も友達の助けを借りながら努力する姿が見られる。(学びに向かう力、人間性等) 	教材の特性	<p>器械運動の一つであるマット運動は、「できる」「できない」がはっきりした運動である。そのため、全ての児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるよう、自己やグループの課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることが大切である。積極的に運動し、約束を守り助け合ったり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器具の安全に配慮したりすることで、一人一人が自己の課題を解決し、楽しく運動できるようにしたい。</p> <p>単元の前半には、基本的な回転系や巧技系の技をおさらいし、それらを安定して行ったり発展技に取り組んだりすることができるようにする。その中で動画を撮影し、上達の様子が分かるようにしたい。また、安全に配慮し、順番を守って積極的に運動に取り組んだり、技のコツを教え合ったりする雰囲気を作る。</p> <p>単元の後半では、友達との協力を重視し、音楽に合わせてグループで技を繰り返したり組み合わせたりすることができるようにしたい。個人差に配慮しながら、協働して作品を作ることで楽しさやできる喜びを味わわせたい。</p>
--------	---	-------	---

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て			イ 評価規準					
	「教材とつながる」	「仲間とつながる」	「自分とつながる」	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	① 自分の能力や課題を把握するために、一通りの技を実施する。そして、設定した課題解決のために、動画教材やICTを活用する。最後に、マット運動の楽しさを味わえるようにするために、音楽に合わせて発表する場を設ける。	② 自己の課題をより明確にするために、仲間との対話の場を設定したりICT機器を効果的に活用したりする。	③ 日々の練習と進歩の跡を確認できるようにするために、学習カードの利用や動画の蓄積をする。学習カードには、技のポイントや、どのような支援が有効であったかも書き記す。デジタルポートフォリオを作成し、自分の成長を感じられるようにする。	ア マット運動の安全な行い方を理解している。 イ 自己の能力に適した基本的な技を安定して行うことができる。 ウ 選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。	ア 自己の能力に適した課題を見付け、課題の解決の仕方を考えたり工夫したりしている。 イ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことや気付きを共有している。	ア 運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 ウ 場や用具の安全に気を配っている。		
ウ 単元における指導と評価の計画								
時	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8
学習の流れ	自分ができる技を知ろう。 ○ マット運動での技の種類を確認し、自分の力を試す。そして、自分の課題を設定する。【視点①】	どうすれば技が上達するか考えて、練習しよう。 ○ 基本的な技を練習する。【視点②】 ○ 自分の課題に応じた練習をする。【視点②】 ○ 終末に拍に合わせた練習を経験する。【視点①】 ○ 技をつなぐ動きの確認をする。【視点①】 ○ 学習を振り返る。【視点③】			発表会に向けて、技や動きを音楽とどのように組み合わせるかを考えよう。 ○ 自分やグループの課題を考え、練習をする。【視点②】 ○ 工夫した技の組み合わせや完成度を上げるためのポイントについて意見交換をする。【視点②】 ○ 学習を振り返る。【視点③】		発表会をしよう。 ○ 活動してきたことを生かして、発表会をする。【視点③】	
	主 知	ア(様態、ICT 端末)			ア・イ(様態、ICT 端末)			ウ(様態、ICT 端末)
	主 思			ア・イ(様態、ICT 端末)		ア・イ(様態、ICT 端末)	ア・イ(様態、ICT 端末)	ア・イ(様態、ICT 端末)
主 態	ア・ウ(様態)	ア・ウ(様態、ICT 端末)						

(2) 単元構想

ア 単元目標

- マット運動の安全な行い方を理解するとともに、自己の能力に適した技や動きを安定的に行ったり、組み合わせたりすることができるようにする。(知識及び技能)
- 自己の能力に適した技の組み合わせ方を工夫するとともに、技や動きのつながりについて考えたことを伝え合うことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- 安全に気を付け、仲間と協力して互いの考えや取組を認め合いながら、積極的にマット運動に取り組むことができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年	低学年	中学年	高学年
観点	〈マットを使った運動遊び〉	〈マット運動〉	〈マット運動〉
知識及び技能	○ マットを使った運動遊びの行い方を知り、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がったり、手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりするなどして遊ぶことができる。	○ マット運動の行い方を知り、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技をすることができる。これらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	○ マット運動の行い方を理解し、自己の能力に適した回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。
思考力、判断力、表現力等	○ 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んだり、動物に変身して腕で支えながら移動したり逆さまになったりする運動遊びの中から、動物の動きを選んだりすることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見付けて解決の仕方を考えたり、課題に応じた練習の場や段階を選んだりすることができる。 ○ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 運動遊びに進んで取り組み、マットが安全に置かれているかなど、場の安全に気を付けることができる。	○ 運動に進んで取り組み、きまりを守って誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器具の安全に気を付けたりすることができる。	○ 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像(ゴールイメージ)及び教師の願い

仲間との関わりを大切にしながら、「分かる」「できる」楽しさや喜びを感じ、進んで取り組む愛顔あふれる子ども
一人一人が自己の能力に応じた課題を持ち、仲間との関わりを大切にしながら、「分かる」「できる」楽しさや喜びを感じたり共有したりしながら、進んで器械運動に親しんでほしい。

5 本時の指導（6／8）

(1) 目標

- 個人やグループの技能を考えながら、音楽と技の組み合わせ方を考えたり話し合ったりすることができる。
(思考・判断・表現)

(2) 準備物

- 教師 マット、Windows タブレット、クロームブック、メトロノーム（電子）、音楽CD
- 子ども クロームブック

(3) 展開

学習活動	○ 教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	<input type="checkbox"/> 指導上の留意点 <input checked="" type="checkbox"/> 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 <input checked="" type="checkbox"/> 評価規準（方法）【観点】
1 準備運動をする。	力いっぱい動けるように、体をほぐそう ・いつもの動きが次第にスムーズにできるようになってきたな。 ・音楽との組み合わせが楽しみだな。	<input type="checkbox"/> 主運動につながる準備運動を丁寧に行うことで、安全に学習することができるようにする。
2 主運動につながる感覚を養う。	・ゆりかご ・かえるの足うち ・丸太 ・アンテナ ・手足走り ・ブリッジ など 音楽と技を組み合わせよう！	<input type="checkbox"/> 体をほぐすことができるように、易しい運動をする。
3 基礎運動をする。	基礎練習をしよう ・いつもの練習にも、ずいぶん慣れてきたな。	<input type="checkbox"/> 本時のめあてを明確にして学習を行う。 <input type="checkbox"/> 拍や歌詞など音楽との調和を想起させる。
4 技の組み合わせを考える。	アイデアを出し、練り合おう ・マットの置き方はどうしようか。 ・このタイミングで前転したらどうかな。 ・この技なら私にもできそうかな。	<input checked="" type="checkbox"/> グループの仲間や教師が動きの提案をする。その際、できる技が少ない児童や苦手意識が強い児童が十分に参加できるようアドバイスをする。 <input type="checkbox"/> 安全面や技能面で注意する点を確認し、意識しながら練習できるようにする。
5 グループの設定に応じた練習をする。 ・演技（する） ・応援（みる） ・補助等（支える）	協力し合って練習しよう ・タイミングの取り方を工夫しよう。 ・演技していない人の動きはどうしようか。 ・安全にも気を配る必要があるよ。 ・今日のベスト動画はこれかな。	<input checked="" type="checkbox"/> 運動を多様に楽しむことができるように、「する・みる・支える」の役割を分担し、子どもたち同士で高め合うことができるようにする。 <input checked="" type="checkbox"/> 自己やグループの能力に適した課題を見付け、課題の解決の仕方を考えている。（様態・ノート） 【思考・判断・表現】
6 整理運動をする。		
7 活動を振り返る。	今日の活動を振り返ろう ・今日は音楽に少し合わせられるようになったな。 ・次回は、〇〇を工夫してみよう。 ・最後の技を変えてみたいな。 ・発表会に向けて、クオリティーを高めたいね。	<input type="checkbox"/> 本時の動画を見て振り返る時間を取り、良かった点や改善点を話し合う時間を設けることで自他を認め、次の活動へ意欲をつなげる。

(4) 本時の研究の視点

- 教材、教具を活用したマット運動における指導方法が工夫されており、子どもたちがマット運動に前向きに取り組むことができているか。 **【教材とつながる】**
- ICT機器を効果的に活用し、仲間との関わりを充実させることで、自己の能力を把握させ、共に学び合おうとする姿勢を育てることができているか。 **【仲間とつながる】**
- 主運動につながる準備運動を工夫し、動きのイメージを具体的につかませた活動を継続的に行うことで、自身の成長を実感し、意欲的に取り組ませることができているか。 **【自分とつながる】**

(5) ワークシート

※別紙（ロイロノート）